

学校運営協議会 議事録

校名	府立淀川工科高等学校
校長名	駒井 知一

開催日時	令和6年7月24日(水) 15:00～16:45
開催場所	府立淀川工科高等学校 記念会館1階
出席者(委員)	川田会長、橋本委員、千石委員、大西委員、辻井委員
出席者(学校)	駒井校長、福井事務長、三谷首席、齋藤首席 他11名
傍聴者	なし
協議資料	令和6年度 学校経営計画、他各分掌・各科系からの報告等
備考	

議題等(次第順)
・スクールミッション、スクールポリシーについて ・令和6年度 学校経営計画 ・令和6年度 各分掌の取り組みの状況 ・令和6年度 各科・系の取り組みの状況
協議内容・承認事項等(意見の概要)

- Q. 上方修正されている項目が多い中、遅刻件数についてご苦労されているように感じる。在籍数が減ってきているのに総件数が増えている。総件数で検討比較されるよりも一人当たりのした方がわかりやすいのではないか。
- A. 配慮が必要な生徒が増えてきている。
- Q. 転退学の数が増えてきているのではないか。
- A. 家庭との連携が大切になってきている。
- Q. いじめ対応件数が増えるのはどうか。
- A. 件数が増えるのではなく、その対応や何かあれば親身になって対応してもらえという安心を生徒の中に増やしたい。
- Q. 電子黒板が設置されたとあるが、どのようなものか。
- A. 据え付けのプロジェクトより投影されるもので、使用している教員も使い勝手がよくなったと言っている。
- Q. インターンシップの数が、コロナが終わり増えてきているが、就職の求人数は増えてきているのか。
- A. 今年度の求人状況は、昨年度同様好調(売り手市場)である。現在までの求人件数は、1000件程度で内指定校求人は600件程度である。製造業が中心で、高校生を広く募集していただいている。
- Q. 時間外勤務者に対し、どんな策をとるのか。
- A. 教員定数が15人減らされているのに仕事量は増えている。悪循環である。スクラップアンドビルドができていない。
- Q. 教員採用試験についてはどうか。
- A. 全国的に見ても、最低の倍率である。

2) 各科・系の取り組みの状況について

Q. 英語の学力評価を上げるのは難しいのか。

A. 学力不足の生徒が多いと聞いている。なかなか難しい。

Q. 教育課程の編成で深化と接続とあるが、どのようなものか。

A. 総合募集の専科(工業コース)の中に、深化と接続を作る。委員会より作るように指示されている。中学生に総合募集の専科からも進学できることを見える化するようにとのことだった。

Q. 観点別評価をすることでバラツキが増えたとあるが、どう変化したのか。

A. 1学期の成績をつけるにあたって平均点が高くなってしまいがいいか、と相談された科目があった。2回の考査の点数が高かったためである。従来の評価方法では、考査成績、平常点の割合は各担当の教員にまかされていた。観点別評価になり、大阪府教育委員会の方針で、観点1、観点2、観点3は、1:1:1で評価しなければならないが、生徒自身がわかっている中間・期末の考査平均点より、大きく下回る点数を1学期成績としてつけるのはつけにくいという現状がある。

Q. 学校見学会をホームページからの申し込みに変更されたとあるが、どうですか。

A. 昨年度より行っているが、大きな手間は少なく、ミスも起こらない。

Q. 懲戒報告の中で、9・10・11の項目が2年生ばかりになっているが、昨年度は1年生ばかりになっていたようなことはあったのか。

A. それぞれの項目が含まれている案件で、複数案件があるのではない。

Q. 高校で家庭学習を重視されていることに驚いた。中学校でも家庭学習の定着は低い。

A. 学力を伸ばしていくためには、必要であると考えている。また、自分で取り組む姿勢を持ってほしいと思っているので重視している。

Q. 3系合同でもものづくり(課題研究)されているのはいいと思う。来年度以降はどうされていくのか。

A. PTを立ち上げ取り組んできた。まだ全体の統合的な活動はできていないが、班の数を増やしていき、後には全体で合同実施していかなければいけないと考えている。

次回の会議日程

日時	11月下旬【未定 後日調整】
会場	府立淀川工科高等学校 記念会館1階